

## 「指示詞+時間名詞」の対照研究：「こー+時間名詞」と「这+時間名詞」を例として

張, 婷婷  
九州大学大学院比較社会文化学府

<https://doi.org/10.15017/27303>

---

出版情報：比較社会文化研究. 34, pp.39-48, 2013-09-09. 九州大学大学院比較社会文化研究科  
バージョン：  
権利関係：

# 「指示詞+時間名詞」の対照研究

## — 「こ+時間名詞」と「这+時間名詞」を例として—

テウ 張      テイ テイ 婷 婷

### 1. はじめに

日本語の近称指示詞「こ-」は「間」、「頃」、「時」などの時間名詞と共に、「この間」、「この頃」、「この時」などの形態で時間を指示することが多い。中国語の近称指示詞“这”も時間名詞と組み合わせ、“这会儿”、“这阵儿”、“这时候”などの形態で過去か現在を指示することがよく見られる。

- (1) 「この間はどうも」 『あした来る人』
- (2) 「この頃、何か上原さんと、まずい事でもあったんじゃないの？いつも、必ず、一緒だったのに。」  
『斜陽』
- (3) 「わかった、わかった」慈海がこのとき、大声をだした。 『雁の寺』
- (4) 这会儿清平湾家家户户都是这响亮的“唏溜”声。那些年人们已经忘记了晚上也可以吃干粮。《插队的故事》  
(この時清平湾のどの家でもこのズルズルという音が聞こえる。)
- (5) 昨天晚上，荆夫是这个时候来的吧？今天，还会来吗？我多么想去找他，与他好好地谈一谈。《人啊，人》  
(きのうの晩、荆夫は今ごろ来たのではなかったか。きょうも来るだろうか。)
- (6) 你稍等一下，我这就去你那。<sup>1</sup>  
(少し待っていて下さい。いまそちらに行きます。)

日本語の用例として、例(1)の「この間」は近い過去の時点を指し示しているのに対して、例(2)の「この頃」は近い過去から現在までの時間帯を指し示している。例(3)の「このとき」は談話の流れから見れば、発話時の「今現在」を指示している。中国語の用例として、例(4)の“这会儿”は「今現在」を指しているのに対して、例(5)の“这个时候”は過去の現在<sup>2</sup>を指示している。例(6)は“这”だけで「今現在」を指示している。

本稿は日中両言語における「指示詞+時間名詞」の典型的な表現である「こ+時間名詞」と“这+時間名詞”

を中心に、両言語の「近称指示詞+時間名詞」の類型と指示する時間概念の異同について考察を行う。

### 2. 先行研究

#### 2.1 日本語の先行研究

堀口(1978)

堀口(1978)では、指示詞用法の下位分類として、「現場指示」、「文脈指示」、「知覚対象指示」、「観念対象指示」と「絶対指示」の5つの分類をあげている。纏めとしては以下の表のようである。

【表1】 指示詞用法の下位分類

類 型	定 義
現場指示	身振りなどで他の実態を示しつつ、自分が知覚している物事を対象とする表現である。
文脈指示	対話などにおいて、相手の表現した内容を指し示す用法と、自分の表現の内容を指し示す用法がある。
知覚指示	他に実態を示すことなく、自分が知覚している対象とする表現である。(内言・独白などの用法が多い、また「コ」、「ア」が多く用いられるのに対して、「ソ」をもちいるのは極めて稀である。)
観念指示	話し手自分の観念に存在する物事を他に明示することなく指示するものである。
絶対指示	特定の場所・時間に関する物を指し示す時の用法である。

また、時間表現について以下のように述べている。

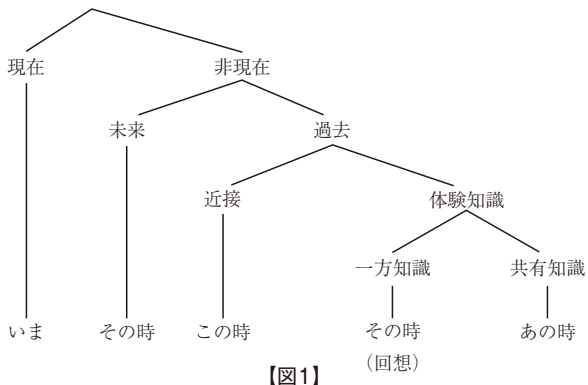
時間に関する用法は近称だけである。「コレマデ」「コレから」「コノ頃」「コノ夏」「三年コノカタ」などと用いられるコは、いずれも、話し手の存在する時、すなわち現在を指示するのである。(堀口1978: 89)

小泉 (2001)

小泉 (2001) では、「日本語の時間的直示詞」の分析として「この時」「その時」「あの時」が取り上げられている。

日本語における現在とは「いま」で表されるが、現在以外で、「この時」「その時」「あの時」を用いるのは「一方知識」と「共有知識」とが作用しているためであると指摘した。以下の図式で日本語の時間的直示詞を分類した。

日本語の時間的直示詞



【図1】

(小泉2001 : 29)

吉本 (1992)

吉本 (1992) は時点に関する表現を例に取って、現場指示と文脈指示の関係について以下のように述べた。

話し手・聞き手の双方に知られていると想定される過去の時点は「アノ時」によって指示される。現在は「今」によって指示される。「コノ時」は必ずしも現在点とは一致せず、未来を除く過去および現在の時点を示す。「ソノ時」は過去・未来ともに指示する。



(吉本1992 : 117-118)

2.2 中国語の先行研究

徐 (1988)

中国語指示詞“这”、“那”が同じ文法状況で使い方が不対称であることを“这／那+時間表現”、“这／那+三人称代名词”、“这／那+‘来’、‘去’”の三つの方面から分析してきた。ここでは“这／那+時間表現”の部分だけ注目されたい。“这”は現在も過去も指し示すことができるのに対して、“那”は過去を表すことしかできず、現在を表

す用法はないと指摘した。表2を参照されたい。

【表2】 这／那+時間表現

这／那 时间词	“这”指现在	“这”指过去	“那”指现在	“那”指过去
年	*	1. 这年他上了大学。	*	2. 那年他上了大学。
月	3. 这个月他出差了。	*	*	4. 那个月他出差了。
星期	5. 这星期我放假。	*	*	6. 那星期我放假了。
天	*	7. 这天他病了。	*	8. 那天他病了。

(\*をつけた部分是非文である) (徐1988 : 128)

“这年”、“这天”で“現在”と言う意味を表すことができないのは、現代中国語では“今年”、“今天”のような今現在を表す単語が存在しているためであると指摘した。中国語では、“今年”、“今天”の言い方があるが、“今月”、“今星期”はない。また、今週を表す“这(个)星期”あるいは今月を表す“这(个)月”は“那”と対立をなさず、“上个星期”、“下个星期”と“上个月”、“下个月”と対立をなしているのである。

彭 (1994)

多くの言語には時間の交替現象が見られ、時間を表す形式も“近”、“远”の概念がある。“指示词+时间名词”もこのような“近”、“远”の区別があると指摘した。例えば：今現在は“近”を表すので、指し示される時間が今から近い時間である場合は“这”と共起しやすい。話し手がある過去の事柄を聞き手にいきいきと、まるで目の前のように陳述している場合、“这”のほうがよく用いられると主張する。

郭 (2000)

郭(2000)は“这”、“那”を含む時間表現を「固定表現」、「这／那+時間名詞」、「这／那+数(量)詞+時間名詞」、「その他の成分+这／那+時間詞」の4つのタイプに分けた。また、中国語の近称指示詞“这”を含む時間表現が指示する時間範囲と文法上の意味合いを分析してきた。

このように、日本語のほうは知識状態と心理的遠近の角度から「このとき」の用法を中心に分析する研究が多い。中国語のほうは指示詞と時間名詞の組み合わせの類型から分析する研究が多い。本稿は先行研究を踏まえながら、両言語の近称指示詞を含む時間表現の類型、指示する時間範囲の異同を考察したい。

### 3. 分析対象と分析方法

#### 3.1 分析対象

本稿では以下のデータベースによって資料を収集した。

- 『中日対訳コーパス（第一版）』（北京日本学研究中心、2003年）

内容：小説、エッセイ、伝記、政治評論 白書、法律関連文書 条約文書、詩など各ジャンルの中日対訳テキスト。

文学作品：中国23篇、日本22篇とその訳本（合計105件、約1130.3万字）

文学以外：中国14篇、日本14篇、日中共同2篇とその訳本（合計45件、約574.6万字）

#### 2. 作例

以上のデータに基づいて、本稿は日中両言語における近称指示詞の「こー+時間名詞」と“这+时间名词”の用例を抽出し考察を行う。

#### 3.2 分析方法

上記の用例に基づいて、まず、日本語の「こー+時間名詞」と中国語の「这+時間名詞」を時間名詞の種類によって分類する。それから、「こー+時間名詞」と「这+時間名詞」が指示する時間範囲の異同を分析する。

## 4. 「近称指示詞+時間名詞」の類型

### 4.1 日本語の場合

日本語における「こー」と時間名詞の組み合わせを独立性の高い名詞かどうか、指示詞と時間名詞の間に数詞が介するかどうか、指示詞と時間名詞の組み合わせが慣用語になっているかどうかによって以下の5つのタイプに分けられる。

【表3】 日本語における「こー+時間名詞」の類型

こー	類型	時間名詞のタイプ	例
この	①	「時」、「日」類	「この時」、「この日」など
	②	「春」「6月」、「火曜日」、「朝」類	「この春」、「この火曜日」など
	③	「一年間」、「一週間」、「二三日」類	「この一年間」、「この一週間」など
	④	「間」、「頃」類	「この間」、「この頃」など
ここ	⑤	「数年」、「十年」類	「ここ数年」、「ここ十年」など

#### 4.1.1 「この」と「時」、「日」などの独立性が弱い時間名詞と共起するタイプ

「時」、「日」などの時間名詞はそれだけでは情報を伝える事ができないため、自立性が弱く、独立の形で使うことができない。しかし、指示詞「この」と共起する場合、「この時」、「この日」等の表現の独立性が高くなる。以下の用例を参照されたい。

- （7） そう言ったが、急に、この時、先刻考えていたことを、思い出したらしい。 『あした来る人』
- （8） この日は曇り空で、風があった。 『雁の寺』
- （9） もっと異様なことには、金閣が折々に示した美のうちでも、この日ほど美しく見えたことはなかったのである。 『金閣寺』

庵 (1994: 40) は「日本語でも（文脈指示の中の）ある種の環境では、「この／その」が必須的になる。これをf-定冠詞（機能的定冠詞）、英語等に存在する統語的に必須である定冠詞をs-定冠詞（統語的定冠詞）と呼ぶ」と述べた。「この時」、「この日」などの表現は文脈指示において、「この」が必須であるため、指示詞の役割を果たすと同時に、f-定冠詞としても機能しているといつてよい。つまり、元々「不定」の「時」、「日」は指示詞「この」を付け加えることによって、物事が起こる時間を表すことになる。

#### 4.1.2 「この」と「春」、「6月」などの独立性が高い時間名詞と共起するタイプ

「時」、「日」など独立の形で使うことができない名詞と違って、「春」、「火曜日」などの時間名詞は具体的な意味を持っている<sup>3</sup>ので独立性が高く、場合によって独立の形で使える。例（10）は自然な文であるが、例（10'）のほうは明らかに非文である。

- （10） 春になると、桜の花が咲きます。
- （10'） \*時になると、桜の花が咲きます。

例（10）の「春」は「春になると、桜の花が咲く」、「春は四季の一つである」、「春は卒業式、入学・入社式の季節である」などの情報が付与されているので、いわば相原 (1990)<sup>4</sup>が提唱した「情報名詞」の一種であって、情報を伝えることができ、自立性が高い。それに対して、「日」、「時」などの名詞はそれ自体では情報を伝えることができないので自立性が弱い。

「この春」、「この6月」のような表現は堀口 (1978) が提唱した「観念指示」の一種であると考えられる。つま

り、話し手の存在する時間的位置、現在時を絶対的に指す用法であり、「今+時間名詞」と置き換えられる場合が多い。例えば、例(11)の「この夏」は「今年の夏」と置き換えられる。

- (11) この夏から秋にかけて、彼は司法試験を受ける予定だった。 『青春の蹉跎』
- (11') 今年の夏から秋にかけて、彼は司法試験を受ける予定だった。

#### 4.1.3 「この」と「一年間」、「一週間」などの時間名詞と共起するタイプ

「この一年間」、「この一週間」、「この二三日」などの表現は「この」と時間名詞の組み合わせであると言うより、「この+数詞+時間名詞」<sup>5</sup>の組み合わせであるといった方がより適切である。以下の用例を見られたい。

- (12) この一週間ばかり僕の頭はひどくもやもやとしていて、誰とでもいいから寝てみたいという気分だったのだ。 『ノルウェイの森』
- (13) 「これは一部ですよ。この二三日のうちに全部梱包会社へ渡さなければならぬんです。こんなのが三十個程あります。全部でニトンもあるんですよ」 『あした来る人』

この種の表現は時点ではなく、過去のある時点から現在までの時間帯を指示している。また、「この」と時間名詞の間に数詞が介するのが一般的である。

#### 4.1.4 「この」と「間」、「頃」と共起するタイプ

筆者は『新明解国語辞典』を始め、7つの辞書を調べた結果、「この間」、「この頃」がすでに独立した語として辞書に登録されている、つまり、「この間」、「この頃」が一つの全体として機能していることが明らかになった。7つの辞書における詳しい検索結果は以下のようである。

【表4】 辞書の調査結果

	新明解国語辞典	言泉国語大辞典	明鏡国語辞典	学研国語大辞典	大辞林	日本語大辞典	日本国語大辞典
この間	○	○	○	○	○	○	○
この頃	○	○	○	○	○	○	○

(○)は当該の語が辞書の独立項目として出現していることを示している。

7つの辞書調査結果から見れば、「この間」は「近い過去から現在までの、漠然としたある期間」を指示することができると同時に、「近い過去の、漠然としたある時点」を指示することもできる。「この頃」は主に「少し前から今までの間」を指示するのである。以下の具体例をみよう。

- (14) 「気に入るかどうか知らないよ。香港に行く人に頼んでおいたら、この間持ってきてくれた」 『あした来る人』
- (15) 「わたくし？」と綺羅子は云って、冴えた瞳をぱっと明るくして、「ついこの間からですの」 『痴人の愛』

例(14)の「この間」は動作が完成した時点を示している。過去の意味を表す。例(15)の「この間」は過去から現在までの期間を指示している。これに対して、例(16)の「このごろ」は「帰宅が遅い」、例(17)の「このごろ」は「花の値段が高い」という状態が持続している期間を指示している。

- (16) 八千代は、このごろ夫の克平の帰宅が遅くなっていることに気付いていた。今まで帰宅の遅い時は大抵酒気を帯びていた。 『あした来る人』
- (17) 「このごろ活け花をしたくても、花が高くてな。」 『金閣寺』

上記の(16)、(17)の「このごろ」は時間副詞「最近」と置き換えられる点から見れば、「このごろ」の「この」の指示詞性質が弱くなり、「このごろ」全体は副詞性を帯びていると言える。本稿はこの現象については対象外とし、今後の研究課題とする。

#### 4.1.5 「ここ」と「十年」、「数年」などの時間名詞と共起するタイプ

元々場所を指示する場合しか使えない「ここ」は期間を表す「十年」、「数年」などの時間名詞と共起し、「ここ十年」、「ここ数年」などの形で時間を指示することも可能である。「ここ十年」、「ここ数年」などの表現は「この十年間」、「この数年間」と置き換えられる。

- (18) ここ数年、アメリカ式能力主義への切り替えが叫ばれ、さまざまな提案、試みがなされているが、現実的には多くの困難をかかえている。 『タテ社会の人間関係』
- (18') この数年間、アメリカ式能力主義への切り替え

が叫ばれ、さまざまな提案、試みがなされているが、現実的には多くの困難をかかえている。

#### 4.2 中国語の場合

中国語における「这+時間名詞」の表現は独立性の高い名詞かどうか、指示詞と時間名詞の間に助数詞、数詞が介するかどうか、指示詞と時間名詞の組み合わせが慣用語になっているかどうかによって以下のように分類できる。

【表4】 中国語における“这+時間名詞”の類型

類型	時間名詞のタイプ	例
①	“时”、“时候”、“天”類	“这时”、“这天”など
②	“小时”、“星期”、“春天”、“早上”類	“这两个小时”、“这几个星期”など
③	“阵儿”、“会儿”類	“这阵儿”“这会儿”

##### 4.2.1 “这”と“时”、“时候”、“天”などの時間名詞と共起するタイプ

“这”、“时候”、“天”などの時間名詞は具体的な意味を持たないため単独で使うことができない、必ず指示詞と組み合わせて使う。この種の時間名詞と“这”とを組み合わせる時、指示詞と時間名詞との間に数詞と助数詞<sup>6</sup>を挿入できない点から見れば、日本語の「この」と「時」、「日」など自立性の弱い名詞との組み合わせに似ている。

(19) 这时候仲伟不知从哪儿喘吁吁地钻出来，说：“你们俩上哪儿了？我这找你们劲儿的！”《插队的故事》  
(この時仲偉がどこからか息を切らしてやって来た。「ふたりともどこへ行っていったんだ。ずいぶん探したぞ」)

(20) 这天，他又去四号窗口买馄饨。看见孟蓓在窗口里面，隔着五六个人，他的心就开始怦怦跳了。

《丹凤眼》

(その日、彼はまたワンタンを買おうと四番窓口に並んだ。中に孟蓓がいるのを見て、五、六人、を隔てた彼の胸の鼓動が激しくなった。)

“这”と“时候”の間に助数詞“个”を挿入することも可能であるが、郭(2000:28)<sup>7</sup>が指摘したように“这个时候”、“那个时候”の“个”の助数詞の機能が虚化し、強調的な効果しか持たなくなっている。

##### 4.2.2 “这”と“小时”、“星期”、“春天”、“早上”などの時間名詞と共起するタイプ

この種類の時間名詞には以下の2つの共通点が見られる。まず、指示詞と結びついている時、数詞か助数詞が必ず前に来る。次に、これらの時間名詞はすべて二音節である。郭(2000)は「双音節の時間名詞はより独立している」と指摘した。上記の“这”と“时”、“时候”、“天”などの自立性の弱い名詞と共起する場合と比べ、時間名詞の独立性が高ければ、高いほど、指示詞と直接結合しにくいといってよい。例(21)の“这个晚上”の助数詞“个”がなければ、(21')は非文であるが、(21")のように、“这”と自立性の弱い“晚”と組み合わせることによって、“这晚/今晚”に置き換えられる。例(22)の“这段时间”の助数詞“段”がなければ、例(22)も非文になる。

(21) 这个晚上大家睡得很早。 《家》  
(その夜はみんなはやく寝た。)

(21') \*这晚上大家睡得很早。

(21") 这晚/今晚大家睡得很早。

(22) 爸爸沉吟了片刻才说：“方丹，这段时间外面很乱，有些事情你是不该看到的，我和妈妈商量了一下，决定暂时先把窗子糊起来……” 《轮椅上的梦》  
(「……方丹、このごろ外はとても混乱していて、子どもは見ないほうがいいこともある。パパはママと相談して、しばらく窓をふさぐことにしたよ……」)

(22') \*爸爸沉吟了片刻才说：“方丹，这时间外面很乱，有些事情你是不该看到的，我和妈妈商量了一下，决定暂时先把窗子糊起来……”

日本語でも同じ現象が見られる、例えば、「この一週間」は「この週」にならないが、「今週」にはなりうる。

(23) (= (12)) この一週間ばかり僕の頭はひどくもやもやとしていて、誰とでもいいから寝てみたいという気分だったのだ。 『ノルウェイの森』

(24) 这春天真是美好的季节啊！  
(春は本当にいい季節です。)

日本語では「この春」、「この夜」、「この水曜日」などの表現は「この-」と時間名詞の間に数詞あるいは助数詞を挿入することができないのに対し、中国語では“这个春天”、“这个晚上”、“这个星期三”のように、“这”と時間名詞の間に助数詞が必ず出てくる。助数詞がなければ、例(24)の“这春天”は「今年の春」を指示するのではなく、“这”の指示機能が虚化し、「春という季節」となる<sup>8</sup>。

## 4.2.3 “这”と“会儿”、“阵儿”と共起するタイプ

“这会儿”、“这阵儿”は慣用語としてよく使われる。呂 (1999)<sup>9</sup>は“这会儿”、“这阵儿”を独立した語としてそれぞれの用法を説明した。“这会儿”、“这阵儿”共に発話時現在を指示することができる。また、照応する先行文脈がある場合だけ、過去か未来を指示することも可能であると指摘した。次の用例を参照されたい。

- (25) “看留小儿这会儿，两个娃了。” 《插队的故事》  
「留小兒は今ほもうふたりの子持ちだよ」
- (26) 明年这会儿我就大学毕业了。  
(来年の今頃大学を卒業する。)

例 (25) の“这会儿”は今現在を指示しているのに対し、例 (26) の“这会儿”は前の“明年”を受け、未来を指している。郭 (2000: 29) はこの場合の“这会儿”を「未来の現在」を指示していると主張した。本稿の冒頭にあげた例 (5) の“这时候”は前に出てくる“昨天”を受け、「過去の現在」を示していると指摘した。

- (27) (= (5)) 昨天晚上，荆夫是这个时候来的吧？今天，还会来吗？我多么想去找他，与他好好地谈一谈。  
《人啊，人》  
(きのうの晩、荆夫は今ごろ来たのではなかったか。きょうも来るだろうか。)

日本語の方は、中国語の“明年这会儿”に対応する「来年のこの時」の言い方がないが、「来年の今頃」がよく使われ、それに対し、中国語では“明年现在”の言い方がない。中国語の方では、例 (27) の“昨天的这个时候”のような言い方がよく見られるが、日本語では「昨日のこの時」とは言わない、「昨日の今頃」を使うのが普通である。一方、中国語では“昨天的现在”は言わない。この原因については、次の部分で分析したいと思う。

以上、日本語の「こー＋時間名詞」と中国語の「这＋時間名詞」を時間名詞の種類によって分類した。分析の結果として、「こ」と“这”は独立性が弱い名詞と共起する場合、定冠詞的な機能をしている。独立性が高い名詞と共起する場合、指示詞の機能をしている。また、“这”と時間名詞の間に数詞や助数詞が介する場合は多いのに対し、日本語の方はそうではない。“这春天”のように助数詞がなければ、“这”の指示機能が弱まって、「春という季節」の意味になっている。次に、「こー＋時間名詞」と「这＋時間名詞」が指示する時間範囲の異同を分析してみよう。

## 5. 「こー＋時間名詞」と「这＋時間名詞」が指示する時間範囲の異同

堀口 (1978: 89) は「時間に関する用法は近称だけである。「コレマデ」「コレから」「コノ頃」「コノ夏」「三年コノカタ」などと用いられるコは、いずれも、話し手の存在する時、すなわち現在を指示するのである。」と指摘した。「こー」と時間名詞の組み合わせは現在と関わるものであるかどうかについて、以下の用例を見ながら、分析していきたいと思う。

- (28) この時、隣りで杉子らしい笑い声が聞えた。しかしそれはすぐ消えて、向うの室に行ったらしかった。 『友情』
- (29) 「あら、また箱根……」と登美子は言った。この夏の小旅行のときのことを思い出しているらしかった。 『青春の蹉跎』

例 (28) の「笑い声が聞こえた」、「向うの室に行った」の動作はすでに完了しているので、「この時」は明らかに過去の時点を示している。金水・木村・田窪 (1989: 36) は「話の流れの中で特に相手に注意をひきたい部分では、「この時」が用いられる」と指摘した。また、金水・田窪 (1990: 140) は「小説や体験談など、時間の経過とともに出来事が推移していくような文章にのみ現れるもので、このような文章では、現場や聞き手などに影響されることなく、話し手の視点を自由に話中の登場人物に近付けることができる」と述べ、「視点遊離のコ」の概念を提唱した。例 (28) の「この時」は談話の流れにおいて、作者がこの時点に読者の注意を特に引きたいとすると同時に、読者を小説の場に取り込み、まるで読者もその場にいるかのようにいきいきと物語を展開して行く機能を働かせている。

例 (29) の「この夏」も過去を指し示すが、「この夏」は「今年の夏」と置き換えられる。金水・木村・田窪 (1989: 84) は「「この」と「春、五月、水曜日、連休、…」などの時期の名前を組み合わせ、現在から最も近いその時期を表すことができる」と指摘した。この考え方から見れば、「この夏」全体は発話時点の現在を指示することではなく、むしろ「今年」のような広い意味上の現在の時間概念を表すと言ってよい。「この夏」以外に、「この三月」、「この朝」などの表現も同じ意味機能を持っている。過去を指示する以外に、未来を指示することもできる。

- (30) この3月、大学を卒業 { します。(未来)  
{ しました。(過去)

呂 (1985 : 211)<sup>10</sup>は中国語の“这”、“那”が時間性連用修飾語になる場合「这」は「今日」、「現在」などと組み合わせる場合が多く、過去に関する表現と共起しやすいのは“那”である」と指摘した。次に、中国語の“这”と時間名詞の組み合わせの用例を参照されたい。

- (31) 这时候仲伟不知从哪儿喘吁吁地钻出来，说：“你们俩上哪儿了？我这找你们劲儿的！”《插队的故事》  
 (この時仲偉がどこからか息を切らしてやって来た。「ふたりともどこへ行っていたんだ。ずいぶん探したぞ」)
- (32) (= (6)) 你稍等一下，我这就去你那。  
 (少し待っていて下さい。いまそちらに行きます。)
- (33) 妹妹高兴地一拍手说：“爸爸，你等着，我这就去煮饺子。”说着她飞快地跑进厨房去了。  
 《轮椅上的梦》  
 (小曦はうれしくて手を叩いた。「パパ、ちょっと待ってて。すぐ煮るからね」そう言いながら小曦は飛ぶように台所へ駆けこむ。)
- (34) “我这会儿什么也不想吃。别急，等种完地，多给我做几顿。” 《金光大道》  
 (「いまは何にも食いたくねえんだ。まあ、畑が片づいたら、うんと食わせてもらうよ」)

例 (31) の“这时候”は (28) の「この時」と同じように、“这时候”を用いることによって読み手の注意を引きたいとし、過去の時点を示しているのである。楊 (2000 : 158)<sup>11</sup>は「“这时”は先行文脈を受け、過去の時間を指示する時、話し手が過去の現場に戻ったように、その現場で報道するニュアンスが生じる」と指摘した。例 (32)、(33) は“这”だけで現在の時点を一時的に指し示している。例 (32)、(33) の“现在”を使う方より「すぐ行動する」という緊迫感が感じられる。日常会話では、このような「現時点、今すぐ」と言う意味を帯びている場合、“这”を使う方が“现在”より多い。例 (34) の“这会儿”も発話時の今現在を指示している。

- (32) 你稍等一下，我现在就去你那。
- (33) 妹妹高兴地一拍手说：“爸爸，你等着，我现在就去煮饺子。”说着她飞快地跑进厨房去了。

すでに分析したように、日本語の「こー+時間名詞」あるいは「こー」だけで中国語のような「今現在」を指示する用法は見られなかった。金水・木村・田窪 (1989 : 84)<sup>12</sup>は「これから」のような表現の「これ」は「今」の意味

であると指摘したが、竹内 (2007) は「今から・これから」と「今まで・これまで」の区別を分析することによって、「これから／これまで」の表現は「発話時点を除いた「こ」で示された範囲を起点とする未来／過去」と指摘した。また、格助詞「から／まで」がなければ、「これ」だけでは現時点を指示することができない。つまり、「これ」は発話時点の今現在を指示することができないといつてよい。

- (35) 映画はこれから (= 今から) 始まるどころです。  
 (35') \*映画はこれ始まるどころです。

中国語では“去年这时候”、“昨天这会儿”、“明年这时候”などの表現があるが、日本語には「去年のこの時」、「去年のこのごろ」、「昨日のこの時」、「来年のこの時」などの表現がないのは「こー+時間名詞」あるいは「これ」は今現在の時点を示すことができないため、過去の現在あるいは未来の現在を示すことができないからである。「去年の今頃」、「来年の今頃」など「今現在の時点」を指示する「今頃」を使うのが一般的である。中国語の“这”あるいは“这会儿”、“这会儿”などの表現は今現在の時点を示すことができるので、過去の現在も未来の現在も指示する。また、日本語の「こ」系指示詞は元々物理的にも心理的にも話し手に近い物事を指示する時しか用いない点から見れば、来年あるいは去年などの時間概念は今の発話時と比べ、より遠い時点であるので、「この時」で指示できないのも当然であろう。

- (36) “明年这个时候我还回来”  
 (来年の今頃<sup>いまごろ</sup>また来ます。)

上記の「こー」と時間名詞の組み合わせで過去の時点を示す以外に、例 (37) の「この頃」、例 (38) の「この間」などの形で過去を示す。

- (37) (= (14)) 「気に入るかどうかわからないよ。香港に行く人に頼んでおいたら、この間持ってきてくれた」 『あした来る人』
- (38) (= (16)) 八千代は、このごろ夫の克平の帰宅が遅くなっていることに気付いていた。今まで帰宅の遅い時は大抵酒気を帯びていた。 『あした来る人』

例 (37) の「この間」は過去の時点を示しているのに対し、例 (38) の「このごろ」は過去から現在までの期間を示す。小泉 (2000) は日本語の時間直示詞の「この時」は「接近の過去」に属すると主張した。また、吉本は



「[コノ時]は必ずしも現在点とは一致せず、未来を除く過去および現在の時点を指示しうる。」と指摘した。つまり、「こー」と時間名詞の組み合わせは過去を指示するものが多い。前述したように、「この夏」、「この3月」など絶対指示の場合も過去を指示することができる。例(31)のような用例以外に、中国語の“这些日子”、“这段时间”などは過去から現在までの期間を指示することができる。

(39) “怎么样? 这些日子一定很苦吧?” 《青春之歌》  
(「どうだね、最近のようすは? きっと、ひどく苦しかったんだろうね?」)

(40) 这段时间她经受的打击太多了。 《轮椅上的梦》  
(このところ続けて彼女を見舞った打撃は大きすぎた。)

以上の分析から、「こー+時間名詞」は主に過去を指示するのに対し、“这”と時間名詞の組み合わせは過去、現在、未来とも指示可能であるが、過去あるいは未来を指示する場合は「過去の現在」、「未来の現在」を指示していることが明らかになった。

## 6. 終わりに

本稿は日本語の近称指示詞「こー」と中国語の近称指示詞“这”と時間名詞との組み合わせについて分析を行ったものである。特に、「こー」と“这”が時間名詞と共に起する場合、数詞、助数詞を介するかどうかについて考察した。結果として、日本語の「こー」が時間名詞と共に起する場合、「この三ヶ月」、「この十年」のような「こー+数詞+時間名詞」の形が多い。一方、中国語は“这段时间”、“这两个小时”、“这两天下午”のような「这+(数詞)+助数詞」の形が多い。

また、両言語近称指示詞と時間名詞の組み合わせは違う時間概念を指示している。日本語の「こー」は過去を指示する場合が多く、「この3月」など未来を指示する用法もある。一方、中国語の“这”を含む時間表現では、現在を指示することもできると同時に、過去、過去の現在、未来、未来の現在も指示できる。

本稿は紙幅の関係で、「その/あの+時間名詞」、「那+時間名詞」について分析しなかった。また、どうして「去年のこの時」、「来年のこの時」が存在しないのかについての説明が不十分であると思う。今後、この角度からも研究を進めたいと思う。

注釈:

<sup>1</sup> 本稿で使用される例文は日中対訳小説から取った例文と筆者による作例の二種類がある。その中で、日中小説からの例文はその後ろに出典が明記されている。一方、出典が記されていない例文は筆者による作例である。

<sup>2</sup> 郭玉玲(2000)を参照。

<sup>3</sup> つまり、「春」を見れば、四季の一つとすぐ分かることから、この種類の名詞はそれ自身だけでは情報を伝えることができる。

<sup>4</sup> 相原(1990)「“这”“这个”および“这块”など」をご参照。

<sup>5</sup> 数詞がなければ、「この年間」、「この週間」の言い方は存在しない。

<sup>6</sup> 中国語は“量詞”と呼ぶ。

<sup>7</sup> 郭玉玲(2000)《说说指代时间的“这”和“那”》p.28

原文:“虽然我们可以说‘这个时候’、‘那个时候’,但不能说‘这一个时候’、‘哪一个时候’,这里的‘个’的量词作用已经虚化,只起强调作用”p.28

<sup>8</sup> 方梅(2002)《指示词“这”和“那”在北京话中的语法化》p.348

原文:在专有名词前,但是整个名词性短语并不指语境中或谈话双方共有知识中实际存在的某一个体,而是具有这个个体所代表的某些特征的一类对象。“指示词+专有名词”构成一个通指成份。

<sup>9</sup> 吕叔湘(1999)《现代汉语八百词》をご参照。

<sup>10</sup> 吕叔湘(1985)《近代汉语指代词》p.211

原文:“一般是跟‘今天’、‘现在’等词语相连用这,跟过去的时间有关则多为那”

<sup>11</sup> 杨玉玲(2000)《“这”、“那”系词语的篇章用法研究》p.158

原文:“‘这时’回指上文,指过去的时间时,说话人似乎又回到了过去,置身其中,其时空位置是跟着过去故事的发展而变化,也可以说是说话人没有自己固定的时空位置,是一种描述的方法,给人一种现场报道的感觉。”

<sup>12</sup> 金水・木村・田窪(1989)『セルフ・マスターシリーズ4 指示詞』p.84

原文:「[これから(これより)」「これまで」の「これ」は「今」の意味である。」

参考文献:

相原 茂(1990)「“这”“这个”および“这块”など」『中国語』1990-2大修館書店, pp.26-28

庵 功雄(1994b)「定性に関する一考察:定情報という

- 概念について』『現代日本語研究』1 大阪大学文学部  
日本学科現代日本語講座, pp.40-56
- 金水 敏(1986a)「名詞の指示について」『築島裕博士還  
暦記念国語学論集』明治書院, pp.467-490
- (1990)「日本語の指示詞における直示用法と  
非直示用法の関係について」『自然言語処理』6-4言  
語処理学会, pp.67-91
- 金水 敏・田窪 行則(1990)「談話管理からみた日本  
語の指示詞」『日本語研究資料集【第一期第七卷】指  
示詞』ひつじ書房, pp.123-148
- 金水 敏・木村 英樹・田窪行則(1989)『セルフ・マ  
スターシリーズ4 指示詞』くろしお出版
- 久野 暉(1973)『日本文法研究』大修館書店
- 小泉 保(1988)「空間と時間における直示の体系」『言  
語研究』94日本言語学会
- (2001)『入門 語用論研究—理論と応用』研  
究社
- 田窪 行則(1990)「談話管理の理論—対話における聞  
き手の知識領域の役割」『言語』19-4大修館書店,  
pp.52-58
- 堀口 和吉(1978)「指示語の表現性」『日本語・日本文  
化』8 大阪外国語大学, pp.23-44
- (1990)「指示詞コ・ソ・アの表現」『日本語学』  
9, pp.59-70
- 吉本 啓(1992)「日本語の指示詞コソアの体系」『日本  
語研究資料集【第一期第七卷】指示詞』ひつじ書房,  
pp.105-122
- 梁 慧(1896)「「コソア」と「这」「那」—日本語・中国語  
の比較対照研究—」『都立大方言学会会報』116都立  
大学方言学会, pp.9-16
- 方 梅(2002)「指示词“这”和“那”在北京话中的语法  
化」《中国语文》4 商务印书馆, pp.343-355
- 郭 玉玲(2000)「说说指代时间的“这”和“那”」首都师  
大学报(社会科学版)(增刊), pp.27-32
- 蒋 华(2004)「现代汉语“这/那”类指示代词的多维度  
考察」(湖南师范大学博士比论文)中国学位论文库
- 吕 叔湘(1980)《现代汉语八百词》商务印书馆
- 吕 叔湘(1985)《近代汉语指代词》学林出版社
- 彭 利贞(1994b)「和汉语的远近文化心理」《文化与世界  
(第二辑)》上海外语教育出版社, pp.243-252
- 王 道英(2005)《“这”、“那”的指示功能研究》
- 徐 丹(1988)「浅谈这/那的不对称性」《中国语文》2 商  
务印书馆, pp.128-130
- 张伯江・方梅(1996)《汉语功能语法研究》江西教育出版  
社
- 杨 玉玲(2010)《“这”、“那”系词语的篇章用法研究》
- 辞書：  
『新明解国語辞典』第七版[机上版] 2012年 三省堂  
『言泉：国語大辞典』1986年 小学館  
『明鏡国語辞典』初版 2002年 大修館書店  
『広辞苑』第六版 2008年 岩波書店  
『大辞林』第二版 1995 三省堂  
『日本語大辞典』第二版 1995年 講談社  
『日本国語大辞典』第二版 2000-2002 小学館

# A Contrastive Study on “Demonstrative+Time Noun” With Special Reference to “Ko+Time Noun” and “Zhe+Time Noun”

Tingting Zhang

## Abstract:

There is a clear difference between Japanese demonstrative system and Chinese demonstrative system. Chinese makes a two-way distinction between demonstratives that one set of demonstratives is proximal (*zhe*), and the other set is distal (*na*). By contrast, Japanese makes a three-way distinction. Besides the proximal (*ko*) and the distal (*a*), there exists one set of medial demonstratives (*so*). In recent years, linguists have paid a special attention to the contrastive studies on Chinese and Japanese demonstratives. Most of the studies are concentrated on the physical distance and psychological distance between the speaker (hearer) and the objects. However, there are only a few studies on the collocation of demonstratives and other words.

Time phrases can be formed through the collocation of demonstratives and time nouns both in Japanese and Chinese. But in some interesting aspects, the patterns of collocation and meanings of the phrases in the two languages are different. This paper describes the differences between conventional collocations and meanings of time phrases in Japanese and Chinese, investigating specifically the Japanese expression “*ko*+ time noun” and the Chinese expression “*zhe*+ time noun”. As a result of the analysis, we can conclude that some specific time nouns in the two languages do not correspond. For example not only numerals but also numeral classifiers can be seen when “*zhe*” collocates with time nouns in Chinese. On the other hand, numeral classifiers can be rarely used when demonstrative “*ko*” collocates with time nouns in Japanese. Furthermore, by contrasting the time phrases of Japanese and Chinese, we can conclude that “*zhe*+ time noun” have a wider time range than “*ko*+ time noun”.

Key words: demonstratives, *ko*, *zhe*, time nouns, collocation.